

哲学文化塾機関誌

# フィロカルチャー

もっと源流へ、  
もっと本質へ!

*La Philoculture*

# 夏

Summer

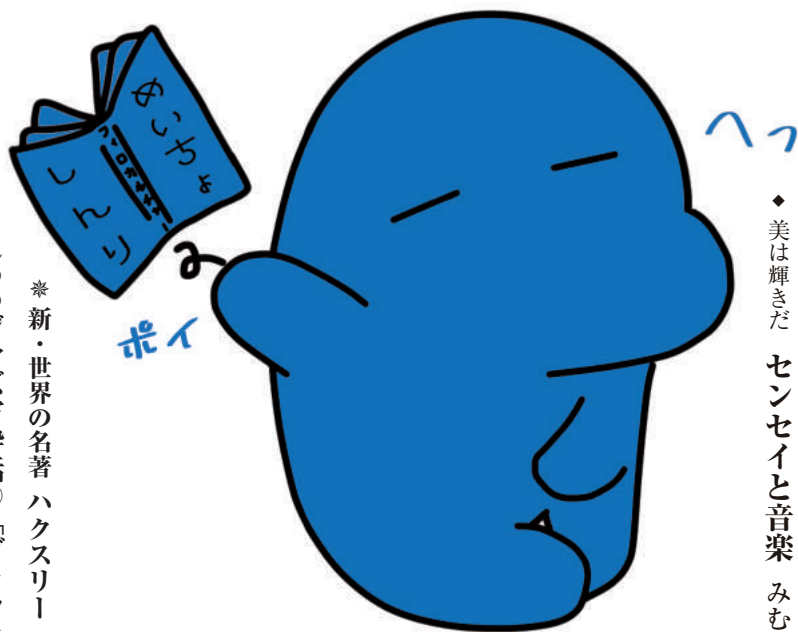
2021

☞ わたしはあの日、 市村みさ希

☞ 提言! 人類存亡の危機に ヤナギダ・カツミ

小特集

ア  
レ  
ー  
テ  
イ  
ア  
  
真理は隠れてる?



◆ 今道哲学「まこと」の真理観 伊藤博章  
◆ 美は輝きだ センセイと音楽 みむらりえ

✧ なっちゃんの世界は多重に出来ている 夏目愛佳

✧ 鳥の幼鳥期と私の幼少期 比べてみたら バットフィッシャー・アキコ

※ 新・世界の名著ハクスリー『知覚の扉』  
※ ののジャズ宵酔話①「ブラックコーヒー」



# Contents

小特集 アレーディア 真理は隠れてる？ 3

「まこと」の真理観 ～今道哲学を語る～ 伊藤博章 7

なっちゃんの世界は多重に出来ている 夏目愛佳 8

提言！ 人類存亡の危機に ヤナギダ・カツミ 10

しののジャズ宵酔話①「ブラックコーヒー」 萩尾しの 15

わたしはあの日、 市村みさ希 16

鳥の幼鳥期と私の幼少期 比べてみたら バットフィッシャー・アキコ 18

美は輝きだ センセイと音楽 みむらりえ 20

新・世界の名著① オルダス・ハクスリー『知覚の扉』 22



カバー・レファレンス：こんばんにちは！ スナメリです。ボクの絵は Twitter が拠点で、4コマ漫画やイラストが掲載されているよ！ 内容は昔作者が体験したこと、周りのこと、感じたことなどを元に描いたものなんだって。少しでも、今悩んでいる人に共感してもらえるように、今後も Twitter だけでなく YouTube にも活動の場を広げる予定だよ！ LINE スタンプも販売してるので、よろしくね！ ボクの絵はここで見られるよ！

Twitter (sunameri@1234)

アレーディア

## 小特集 真理は隠れてる？

フィロカル編集隊長・濱賢

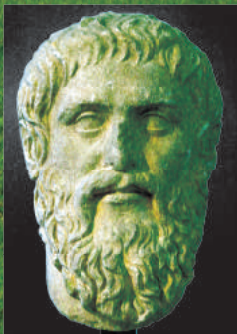
古今東西、一般的に、都合よく自分本位で語られることが多い「真理」あるいは「真実」について、皆さんと一緒に整理して、考えようと思います。永遠で絶対的な価値を有するもの、遠く存在のほのかなたで輝いているもの、深遠な形而上学的思索でのみ捉えうる絶対的価値、悟らなければ、決して到達できない境地、多大なお布施や高額なグッズを買わなければ得られない至福。こういつたすべてのインチキないわれをとりあえず捨て去り、まじめに検証してみましょう。基本的なことを確認しておくだけで、カルト商法や信者ビジネス、詐欺商材、妙なセミナーやマルチなどに引掛からずに済むという幸運が舞い込むかもしれません。

真理入門  
ウィキペディアによると「真理 希・*alētheia*、*veritas*、英・*truth*、仏・*vérité*、独・*Wahrheit*）は、確実な根拠によって本当であると認められたこと。ありのまま誤りなく認識されたことのあり方。真実とも」とあります。

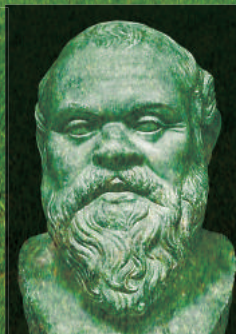
しかしそもそも確実な根拠とか誤らずに認めるとか、誰にできるのでしょうか、仮にできていると言いつても、その保障はあるの？ と聞きたくなります。まして真理を真実と言い換えられてもなあ……、ならば、逆に真実とは真理であるともいうのでしょうか。

それはともかく、人前でかつこつけて、いざ哲学史など語るといふのために、読み方を確認しておきましょう。ギリシヤ語「アレーテ

イア」、ラテン語「ウエ・リタース」（以上、黒丸にアクセント）、英語は略、フランス語「ヴェリテ」、ドイツ語「ヴァールハイト」。要注意は、ラテン語で、決して「ヴェリタース／ヴェリタース」などと読んではいけません。いわんや論文などでそのように表記するのも控えたいもの（ハッタリと感性の鈍さがバレます）。最初は正しく発音して、次からは楽しんでいいと思いますが（例えば、毎度毎度「トゥーキエーディエース」というのはタイヘンなので、二度目からは「トゥッキエーデス／ツッキデス」で、という意味。ソークラテースも同様。分かって楽するのは問題ないでしょう）。  
ちょっと、横文字ばかりだけど、真理は漢字じゃん！ という正しいツツコミは後に回して、先に結論を言っておくと、古代から近現代、今



プラトーン（前427-347）



ソークラテース（前470頃-399）



日に至り、思想家の数だけ勝手な真理あり、とまではいかなくても考え方にバリエーションがあり過ぎ、逐一付き合っなどいられない（し、そうする義理もない）というのが実情かと思われます。

しっかり学びなさい、などという主張は、哲学を利用して対価を得ている教師の論理でしかなく、哲学を使つての収入獲得はソクラテス的にはアウトです。それは哲学者ではなく、ソフィステース（ソフィスト＝知者）と呼ばれる職業講師の仕事であります。

さて、改めて五つの西洋語に目をやると、一つだけ語義的に毛色の違うやつが交ざっています。ギリシャ語のアレーティアです。

### アレーティアの不思議

語尾のイアは名詞化してただけなので、無視してア+レーテのアは否定、レーテ（元はランタノーという動詞）は隠れる、忘れることなので、隠れず、忘れず、公然と一糸まとわぬあらわな姿でさらけ出しているような状況。つまり、真理は常に全裸待機していると言えます。

しかし、大問題は、いや面白いところは、それでも我々の目に見えるとは限らないという点です。理由はシンプルで、人間はおろか者だからです。聡明なオイディプスでさえ、真理（＝真実）が見えず、全てを見た（＝知った）ときには、両目を潰し、何も見えなくなったという何とも余りにも皮肉過ぎる悲劇（劇のプロット上手過ぎ）。

見えない＝分からない（うから）だと言いたいわけです。何たつてお告げによれば、一番の賢者ですから。ただし、このソクラテスは、あくまでプラトンが描くキャラであり、ほかの作家、作品のキャラは、もちろんのこと、実在した（とされる）歴史的ソクラテス当人とは別物です。

脱線ついでに、ではなぜ、プラトン・キャラのソクラテスが本当のソクラテスのように扱われるのかを見ておきましょう。

答えは単純で、プラトンのソクラテスがとにかくにも一番偉いからであり、それは何を隠そうプラトン自身が西洋思想上、とてつもなくドエライ影響を与えた大哲学者で、いわば神様のようなスーパー大権威だからです。

神様といえば、キリスト教教義のハイパー厚化粧式理論武装もプラトンなくしては語れませんが、その超絶偉大なプラトンの師匠であるからには、ソクラテスは絶対にどこまでもスーパー・グレートであつてほしい、いやあらねばならぬ、あらねばみんなが困るのです。よって当然、序列階層、権威大好きな研究者たちはプラトン・キャラこそ真のソクラテス（に限りなく近い）とヨイショし続けてきたわけです。アリストパネス・キャラなど、月が落ちてきても、地球が割れても到底認めるわけにはまいりません。

このように西洋でのプラトニズム（新プラトニズムも含め、大雑把に）やキリスト教神学・思想・文化文明がすご過ぎるので、おまけに西洋かぶれの明治維新以降の我が国の先生方も、皆でソ

ついでに言えば、ファアブルの、見ることは知ること（To see is to know）という名句ですが、ラテン語のウイデオ（見る）とギリシャ語の（ヴ）オイダ（知る）が同語源であることから分かるとおり、大昔から、見ることは知ることなのです。

したがって、隠れている真理というのはありません。言葉の成り立ちからして、モロ見え状態ですから、隠された真理などというのはチャンチャラおかしいことになります。なぜなら、隠れた瞬間、アレーティアでなくなるからです。

一体どれくらいチャンチャラさかと言えは「募つてはいるが募集はしてない」くらいスーパー・チャンチャラです（無意識のうちに募ると募集という語感の硬度的差異でごまかそうとしたのかもしれませんが、いずれにせよ、突出したスーパー・チャンチャラ・ボンに違いないのは明らかな真理）。

真理自体は大つびらながら、ただただおろかな我々には見えない、つまり分らない＝知られていないだけといことなのでしょう。そして世の中、分からないことだらけなので、裏を返せば、真理だらけということになり、これを解明していくことが学問とか研究とか呼ばれる活動です。

### 全裸待機以外の真理

残る四語ですが、残念ながら（？）、そういった大つびらな意味はありません。語義は、似たり寄ったりで、原意も含め、正しいとか誠実とか確たる物事とか、極めてまともです。

クラテスを担がざるをえないという構図です。

話を戻して、そんなこんなで、全裸待機してやるやつも正しいことも無数にあるので、つまり真理は無限にあることになり、少なくとも希少価値などないのでは、ということになります。

確かに、中にはささやかな、あるいはくどらない真理もあるらしく、ツアラストラもそう言っているのも事実です（もちろん偏見独断で突っ走るニ・チュエらしく。次ページ欄外引用文参照）。そこでも半ば強引に全真理に価値を付与するために、<sup>[31]</sup>とところがどっこい、無数の真理には、共通する真理のイデアのようなものが入っている（個々の物や音が美しいのは美のイデアを与えられているから皆美しいってやつ＝イデア論）、究極的唯一・絶対の神様によって分与されているのです。だからとても価値があります。

いやいや、そもそも神様が美しいモノもそうでないモノも万物全部創ったんちゃうんかい？とツツコめるほど、とほとんど真理だらけ、詭弁とも言われかねない屁理屈ですが、こういつた思索を支えているのもプラトニズムです（注：歴史として要チェックなあくまで昔の考え方です）。

信じる／信じないで言えば、宗教（やこの手法を悪用したセミナーなど）にありがちなレトリックで「そこでイエスは自分に従ったユダヤ人らに言った『君たちが私の言葉に従い続けるなら、本当に私の弟子です。そして君たちは真理を知り、真理で君たちは自由になります』」（ヨハ<sup>アレキサンダー</sup>8：31・32。下記欄外参照）のように、真理の実相

語源的には、一見、英語だけが仲間外れで、残りは血縁関係にあり、フランス語（ヴェリテ）とラテン語（ウエリタース）は、見るからに親子（これは正しい）、ドイツ語も名詞化する語尾のハイトを外してヴァールと書けば、何となく、遠い親戚にヴェーリやヴェリテがいそうですが、こちらは歴史的に他人の空似でしかありません。語義的に言つて、アレーティアとその他の語との大きな違いは、アレーティアはヒトが見ていようが、見ていまいが、大つびら全裸待機状態であること、ほかの語は、こいつは全裸だとか、いやスケスケだが全裸じゃないとか、見られるもの（客体）が見る者（主体）に正しく把握されている状態「真理とは理解と物事が合致していることである」(veritas est adequatio intellectus ad rem)（出ました！ トマス様のお言葉）を示しているような感じです。

### 哲学的神学的真理の価値

ということを踏まえれば、ソクラテスが、言い方はソフトでも、お前らに見えていないアレーティアを余すところなく隅から隅までズズズいっとトコトン見せて（語つて）やつから、黙って大人しく聞かぐよいと言って弁明を始めるのもよく分かります（しかしこの時点で裁判の何たるかを全く無視したアウト・ローなやつだということも分かります。また、そこが面白いところでもあります）。わざわざモロ見えのはずのアレーティアを語るのはそういうこと（お前ら情弱には

を語ることなく、漠然と何かありがたいものとして思わせぶりに扱い、客を釣るような手法が多く見られます。いざとなれば、神こそ最高の真理なのだあ！と言つて逃げられます。この類いの主体は、そもそも真理の何たるかに無関心なので、議論してもどうなんでしょう……。

### 漢字の真理

さて、この辺で、後に回した漢字の真理について簡単に。西洋語同士でも違いがあつたように、漢字で真理というとか、いきなり雰囲気が変わります。真理、真実、真如、とても抹香臭くなり、確かにそつち系の術語です。

西洋思想を考え、議論する際に、こういった漢字を使っていると、知らず知らずに、漢字の魔力（仏の力？）に引つ張られて、全裸待機とは別世界の話になつてしまふので要注意です。西洋思想の真理（真実）を考えているのに、漢字の魔力で目がくらみ、真理と真実は違うとか、本当のこととはどうなのとか、誠実さは別物とか、なるほど漢字ではそりゃそうだけれど、西洋語ではどれも訳語としてOKなわけで、何の話か分からなくなります。外見にだまされてはいけません。

諦という語も真理直結です。あきらめる、明らかめる、明るくするということです。物事が分かつた時点で、大宇宙の有界無限の真理を前に、諦めざるをえない、というか、諦めに達することができた、つまり諦観や諦念という前向きな境地。世界を見て、知つた、というわけです。

[31] Ἐλεγεν οὖν ὁ Ἰησοῦς πρὸς τοὺς πεπιστευκότας αὐτῷ Ἰουδαίους Ἐάν ὑμεῖς μενίγητε ἐν τῇ λόγῳ τῷ ἐμῷ, ἀληθῶς μαθηταὶ μοῦ ἐστέ, [32] καὶ γνῶσθετε τὴν ἀλήθειαν, καὶ ἡ ἀλήθεια ἐλευθερώσει ὑμᾶς. (John, 8)

ただし、アレーティアのような全裸待機だけを見て、知ったとは限らず、漢字の世界では、隠れているものをつっそり覗き見して、知ることも含まれているのでしょうか。

## 漢字遊びで真の逆

真の逆は偽、人の為と書きます。ウソも方便、隠し事は墓の中まで持ってイケ！ ではないですが、確かに、残酷で醜い真理を伝えるよりは、事と次第によりけりで、偽りが人のためになることもありま。しかし、これを逆手に取って、歴史的事実を書き換えたり、演出と称して都合よく錯覚商法的報道を行ったり、まれに当事者がこれこそ本当の話だと自ら信じ込んでしまっている病的なカルト現象さえ起こります。

悪い真理と同様に、よい偽り、役立つ偽りもたくさんあり、しかしどっちとも決めかねる難しさや悪用の弊害も混在し、何とも世知辛い世の中を象徴する漢字現象ではないでしょうか。

## 用例の確認

抽象論や一般論、方法論やハウ・ツーだけでは、分かりやすくてもウソ臭いので、最後に実例をチェックしましょう。プラトンの『弁明』で、全裸待機のアレーティアの全てを、見えていないお前らに私は語ろうとソクラテスは言います。

ニユッサ（トルコのネフシヒル）のグレーゴリオス（美の形而上学に不可欠）は真理と虚偽を定義します。同じ古代、同じ言葉のアレーティ

アでも七〇〇年も経つと、いろいろあつて（そこが面白いのですが、雰囲気も変わ（モノからコトへ）、かなり理屈っぽくなつてます。というか、アレーティアが、少々小難しくなり（着飾り始めた？）、完全にほかの四語と同じ意味に移行しています。そしてニーチェ、真理にもつまらぬものもある。文化人気が取りの意識高い系学者がのたまうちっぽけな真理など何とも寒過ぎる、とは、なるほど正論ばかりの長話つてところか。

以上の三大思想家をチョイスしたのは、哲学文化塾・今道友信記念文庫的視点（今道友信氏が好んで取り上げた作品で、ニーチェの講義や『弁明』の読書会もしばしば行われていた）によるものです。



ニーチェ (1844-1900)



ニユッサのグレーゴリオス (c.330-c.395)

οὔτοι μὲν οὖν, ὥσπερ ἐγὼ λέγω, ἣ τι ἡ οὐδὲν ἀληθὲς εἰρήκασιν, ὑμεῖς δέ μου ἀκούσεσθε πᾶσαν τὴν ἀλήθειαν—  
Plato's *Apology of Socrates*, 17B

さてさて彼ら（原告側）は、私が申しましたとおりで、ほとんど何も正しいことを話しておりません。しかし皆様方には私アレーティアが本当のことについて余すところなくお聞かせいたしましょう。

\* 次のアレーティアとはずいぶん雰囲気違います。

Τοῦτο δὲ ἐστί, κατὰ γε τὸν ἐμὸν λόγον, ὀρισμὸς ἀληθείας, τὸ μὴ διαψευσθῆναι τῆς τοῦ ὄντος κατανοήσεως. (Ψεῦδος γάρ ἐστι φαντασία τις περὶ τὸ μὴ ὄν ἐγγινομένη τῇ διανοίᾳ, ὡς ὑφρεστώτος τοῦ μὴ ὑπάρχοντος· ἀλήθεια δὲ, ἡ τοῦ ὄντος ἀσφαλῆς κατανόησις.)

Gregorii Nysseni, 'De Vita Moysis', Migne, PG, vol.44, p.333, A

私の言葉では、真理の定義とは存在するものについての考察が間違っていないということである。（なぜなら、間違いとは、存在しないモノについての思いに生じるある種のファンタジーで、確かな存在ではないものを実体ありと見なすことだから。真理とはあくまで存在しているものを確実に考察することである。）

\* とても科学的で論理的であるが、前後を読むと……。

Geben sie sich weise, so fröstelt mich ihrer kleinen Sprüche und Wahrheiten:

Friedrich Wilhelm Nietzsche, *Also sprach Zarathustra Ein Buch für Alle und Keinen*, Zweiter Theil, Von den Gelehrten  
彼ら（学者ら）が賢い振りをする、私は彼らの取るに足りない模範的言辭にも真理にも寒気を感じる。

\* この真理の使い方には、ちょっとしたアイロニーも？

## 第6回今道友信メモリアル

# 「わが哲学を語る」を語り継ぐために

## 「まこと」の真理観

### 今道哲学を語る

真理とは正確性を追求する客観的認識に関わるものとする真理観とは別に、今道は、価値判断・決断・裁定など「判断」に関わる独自の真理観を考えた。そのさい、この判断の真理は、和語の「まこと」に関係づけられて、真理概念が考えられていく。ただし、「まこと」といっても、幕末維新期の儒学の「誠」の思想とは全く関係ない。「まこと」は、「こと」に「完全・本物」の意味の接頭辞「ま」が付いた言葉であり、その語義が重要となる。つまり「こと」と「まこと」の関係に着目して、「まこと」という真理概念を提示するのである。

「こと」は「事象」と概念化される。「事象」を今道は「自己を含めての現実事象として今意識せられている事象」と分かりにくい表現をしているが、「人間が実存として関心を持ちつつ関わり合っている現実」という実存主義の哲学で言われる「状況」に近い概念であろう。この事象が不安定化し、それが自己に「不安」として

直覚されるときがある。今道は、その例として、「河に幼児が落ちて水流にのまわかけている」という事態に直面している場合をあげる。このように平穏な日常性が失われていることが「事象の破綻／事象の傷」と呼ばれる。

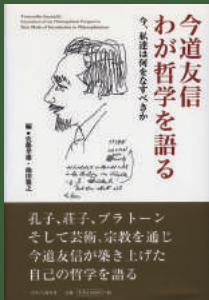
破綻は補填され、傷は癒されねばならない。この例の場合は、それは「幼児を救う」という決断・判断をすることである。この判断は不安定化し不完全な「こと」を「まこと（完全なこと）」に向けて克服していくことを意味する。つまり判断は「まこと」を志向してなされる。この判断における「まことへの志向性」が「まこと」の真理概念の中心にある。

今道の哲学は理性の超越の可能性を考える哲学である。それゆえ、「超越者」が重要であり、それは「存在そのもの」「原同一性」などの概念として考察されていく。「まこと」はこの「存在そのもの」とされ、超越的なものと考えられ

今道友信（いまみちとものぶ） 東京大学名誉教授、清泉女子大学名誉博士、国際形而上学会会長、国際美学会終身委員・名誉会長、日本アスペン研究所特別顧問、日本美容専門学校名誉校長。

## 略歴

1922年— 2012年。東京生まれ。東京大学文学部哲学科卒業、パリ大学（研究員）、ヴェルツブルク大学非常勤講師、九州大学助教授、東京大学助教授、教授、国際美学会副会長、哲学美学比較研究国際センター所長、紫綬褒章受賞、放送大学教授、清泉女子大学教授、副学長、勲三等旭日中級章受賞、第25回マルコ・ポーロ賞受賞、2006年：第19回和辻哲郎文化賞受賞。



『今道友信 わが哲学を語る』（今道友信著、佐藤孝雄・池田雅之編、かまくら春秋社、2010年）。

伊藤博章（いとう・ひろあき 倫理学）



# 世界は多重に出来ている

## アイス落としちゃったクマちゃん

わたしの友人にクマちゃんグッズの作家さん（あきのり氏：Twitter@akichan14）がいるのですが、先般、衝撃作「アイス落としちゃったクマちゃん」キーチェーンが発表されました（図①）。界限では「なぜアイスがクマちゃんの体よりも大きいのか」と話題になりましたが、アイスを落とした悲しみの大きさを反映してクマちゃんの心象風景の中で巨大化したのだという説が有力です。このクマちゃんのように、なにごと



図① アイス落としちゃったクマちゃんキーチェーン（あきのり氏提供）

わたしたちは心のフィルターを通して物事を見えています。

## 文化の違い

いわゆるLGBT……に対する人々の見方は様々です。見方が異なるのは、これまでの文化・慣習・情報・体験によって人それぞれ、異なる心象風景に映っているからなのでしょう。中には当事者を傷つけてしまうものもあるかもしれません。それをただ糾弾することは簡単ですが、それは各人の心象風景とは切り離せないことであり、これまでの文化・慣習などによる構造的なものである可能性があります。したがって、それを解決する1つの方法は、地道に文化・慣習を統一的にすりあわせることが挙げられるでしょう。その場合、特定の文化・慣習を失ってしまうという危険もはらんでいます。しかし、それでも新しい概念の方を重視して必要性を訴えるということもあるでしょう。

もう1つの方法は、2つの文化が乗り越えられないモノと割り切って、その差を評価（定量的に比べる、という意味で使われる用語です）・理解し、2つの文化間を自由に行き来する道を作ることです。

## 宇宙際タイヒミューラー理論

ある数学の体系の1まとまりを「宇宙」と表現します。異なる数学体系（宇宙）について、差を評価する研究が行われています。国と国との関係性を国際というのに倣って、宇宙と宇宙の間のことは宇宙際といえます。京都大学の望月新一教授はその評価を行う式を考案し、宇宙際タイヒミューラー理論としてまとめあげました。その理論では宇宙間の変換において欠落してしまいう情報を評価することができ、その点がこれまでの数学にはない新しい試みであるとして期待されています。

## 人間際の変換不可能性

人と人は違う。自分と他人は違う。違うなら同じ統一的な基準を作ってそれに従うようにし、その差異が乗り越え可能であると信じる道。それも1つの道でしょう。しかし、もしそれが不可能である（経験的には既にそう思っている人も多数いると思いますが）となったときの道も検討すべきではないでしょうか。すなわち、相手の全てを納得するのではなく、その乗り越えられなさの方を可視化して理解、納得するという道です。

具体的には、あの人はこういうバックグラウンドがあるから、わたしのバックグラウンドから見える世界とc程度異なるはず。そのcがある範囲Oに収まっている（c<O）間はヨシとし、それ以上と見なされる場合（c>O）は攻撃や差別と見なして反論・抵抗する、という具合です（図②）。例えば、男性の格好をしたときのわたし（A）に対して、Bさんが「男らしくてカッコイイね」といってくれたとき、「男か女かわからないのだから発言を慎め」というのではなく、Bさんの体系から見たわたしの表象x<sub>B</sub>とわたしから見た私の表象x<sub>A</sub>はある程度（c）異なるのだと理解して、その程度の許容範囲を定める、という具合です。もちろん、cの大き

さを許容する幅の設定が課題となります。

人間と人間の間（人間際）における差異がクリアに理解される日は今後来るのでしょうか？

今、宇宙際タイヒミューラー理論は世界でも数十人しか理解しないとされています。100年後には、体系が整理されてより多くの人が理解し、使いこなすようになるでしょう。1000年後には高校生で習っているかもしれません。そのような空想の延長線上に、人間際のよりクリアな理解——多くの人が互いの立場を尊重できるようにするという——もあつたらいいな、と妄想して本稿を終わりにします。

図2 A IUT理論の肝となる数式。もちろん、我々一般人が全てを理解することは出来ないけれど、参考文献(2)で一般向けの概略が学べます。  
B 2人の考えの中で対応する概念x<sub>A</sub>とx<sub>B</sub>が“=”で結ばれているとすると、それらは等しくなく、x<sub>A</sub> ≤ x<sub>B</sub> + cのような形の不等式で表現されるが、その程度をある一定以内におさめられれば、と思えます

$$\deg \theta \leq \deg q + c$$

$$x_A \leq x_B + c$$

## 「世界は多重に出来ている」

この多重性を残しつつ、行ったり来たりすることができるようになれば、もつと皆が生きやすくなるのだと、期待しています。

★参考文献・読書案内

(一) クマちゃん屋や2HP (https://mine.com/@akichan14) 宇宙と宇宙をつなぐ数学——IUT理論の衝撃、角川学芸出版（二〇一九年）



あたらしい「わたし」の生き方  
A5判・76頁



◎夏目愛佳（なつちゃん）  
自分の生きる道、性に悩み2017年に「量子論的な男の娘」という考えに至る。その時から目の前が開け、同人誌的にサイエンス&個人哲学の本『あたらしい「わたし」の生き方』の執筆を開始。現在下記サービスにて販売中（https://libra.sc/products/detail/305）。



# 人類存亡の危機に

未来の人間にとって絶対に必要なことは宇宙旅行、つまり地球からの脱出です。なぜなら、50億年後には、太陽が燃え尽きてしまうからです。

## ●体重、五グラムのヒト

しかしヒトは現在のサイズでは大き過ぎ、また重過ぎて、重力の変化に弱いのです。そこで一例として一万分の一の大きさになれば、体重は五グラムほどになり、ジャンボジェット・サイズの機体に五〇〇万人が乗れます。

ちなみに、人類によって地球環境が汚染されてしまったとか、エネルギーを使い果たしてしまったりといった理由で、地球から離れることはありませぬ。それらは、必ずヒトの英知で解決

できるからです。

五グラムというと、アメ玉一個程度となり、脳の容積が問題になりそうですが、不足分はクラウド的なもので補うことになるでしょう。

この条件で同じものを一〇〇〇機作れば、五〇億人が搭乗でき、地球脱出が、より現実的になります。ちなみにボーイング747だけでも一九六九年から二〇一四年の間に一五〇〇機が納入されています。

五〇億年後はずいぶん先のようには思われませんが、その間にかかなり大幅な進化をしなければ



5,000,000人  
搭乗可能!?

なりません。ただし自然な進化というより、人為的な品種改良のようなものに近いでしょう。

というのも、一般的に進化は現状に合わせて行われてきており、まだ見ぬ未来のための進化というのは、起きようがないからです。

品種改良で有名なのはイヌです。五〇〇以上



の多品種を誇るイヌという生き物は、大自然には存在せず、ヒトがオオカミから作り上げたもので、よく神様が怒らなかったものだ、感心します。

つまりヒトはイヌにとって神様(創造主)のような存在であり、このことはイヌがヒトを好きになる理由でもあります。

ここで一句。

🐾バカイヌを つくり出すのは バッパい主

## ●更なる特化スタイル

できることなら、私たちはハリウッド映画のように、現状のまま宇宙へ旅立ちたいのですが、この姿は地球に特化し過ぎて、エネルギーの損失も多く、宇宙旅行向きではありません。

例二として更に宇宙旅行向きなスタイルがあります。それはヒトのDNAを持った微生物です。宇宙線にも強く、寿命は一万年だとすると、光速の一万分の一の速度(時速二二万キロ)で飛べば、一世代で一光年の距離まで到達できます。

これではまだ「オールトの雲」(太陽系の外側を取り巻く理論上の天体群で、太陽から約一萬auと太陽の重力が

## ●感動と実用

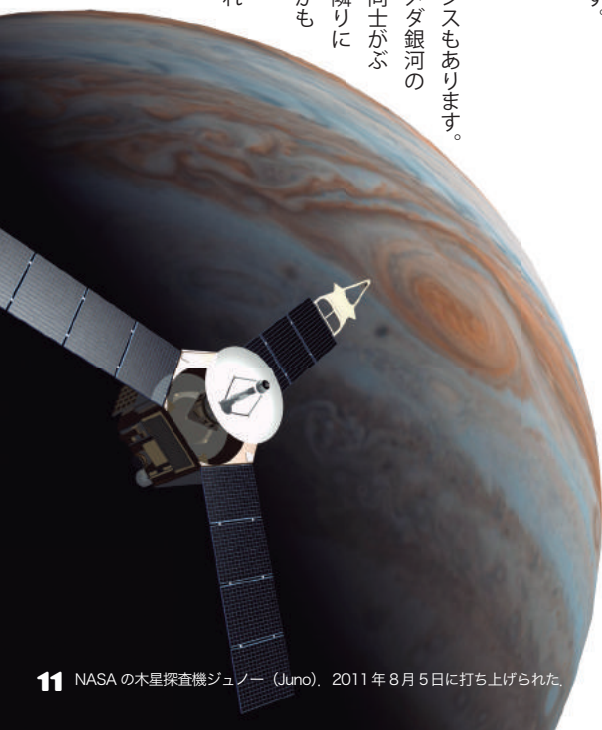
また星の距離が縮まるチャンスもあります。それが天の川銀河とアンドロメダ銀河の衝突です。衝突といっても星同士がぶつかる確率は低く、数光年の隣りに別の太陽系が引つ越してくるかもしれません。

そうした遠い未来の話はされても、どうせ見ることはできないのだからと、無関心になりがちですが、たとえ見るこ

感動はないかもしれません。地球が四六億年かけて作った、この現在という奇跡の瞬間に對し、感動しない人間ならば、未来に何が起きてても同じことなのです。

本格的SFの世界を感じ取るためには、現実もよく見る必要があります。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』では、空飛ぶ車や浮かぶホバーボードがありましたが、スマートフォンはありません。

ではどちらが未来的に有効だったかといえば、車が空を飛ぶ代償として、スマートフォンを取り上げられた生活を考えれば分かります。





つまりフワフワみんなで浮かぶのは気持ちよさそうですが、実生活ではそれほど重要ではないのです。一方A-の発達で、ヒトは何もしなくてよくなってしまっているのではないかと心配されています。

## 何もしないことが重要

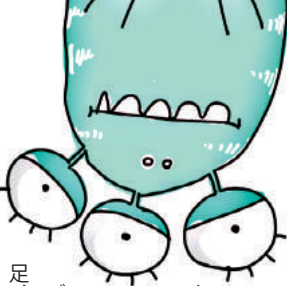
ところが宇宙では何もせず、エネルギーを使わないことが重要です。宇宙旅行の間に、乗員同士のいさかいやケンカが起きるのは、夢のような出来事となるでしょう。

そして宇宙に飛び出すとき、もはや発射エネルギーすら使わないかもしれません。太陽は燃え尽きる前に巨大化して、その直径は太陽の中心から地球をはるかに超えます。

つまりみすみす巨大化する太陽に飲み込まれ溶かされるくらいなら、すい星を誘導して地球に衝突させ、そのエネルギーで宇宙に飛び出すのです。

一見乱暴な計画ですが、ここは「地球に優しく」などといった場合ではありません。これにより得られるエネルギーは、人間の作る全核兵器の総和の比ではなく、予想外のスピードが出せる可能性があります。

このような極めて強い衝撃に対しても、微小構造は有効です。そして到達した地球の環境に



おそらくは恐竜に対してさえも支配力を持っていたでしょう。

例えばダイエットやボディビル、整形手術や足、コルセットや機能性ブ

ラなど、生命の危機をも乗り越えて形態を変更する行為は、今でも日常的に確認できます。

しかしながら学術的には美術や哲学および心理学、そしてせいぜい生物学などに限定され、美が宇宙の秘めたるエネルギーとして、天文学や宇宙物理で語られる場面はありません。

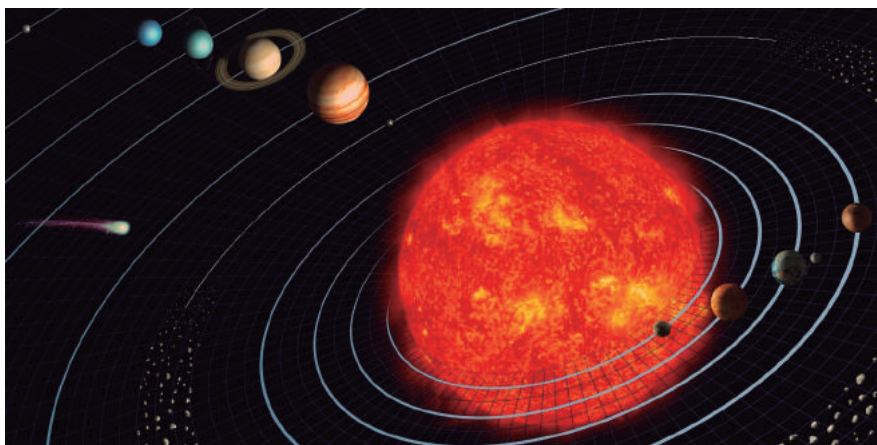
歴史を振り返ると、宇宙は電気エネルギーを用意しており、ヒトは紀元前からその存在を十分知っていました。一九世紀まで四千年以上本当の活用方法は分かりませんでした。

同様に、人類がほかの生物にはない未来予測能力を持ち始めた現在、美を進化アイテムと自覚し、意識的にコントロールする日が来るのかあるいは知らないうちに、美によって誘導され進化してしまうのか、全く分かりません。

## 途切れない生命

いずれにしても、宇宙がもたらした生命というシステムは、物質の生成システム同様、そう簡単にどこかで途切れてしまうことはないで

合うよう、ファイルが徐々に解凍されてゆくわけです。



しょう。

すなわち水素からヘリウム、更には超新星爆発の核融合により様々な元素を作り続けている宇宙の実験室では、同じく生命の実験もまだまだ終われないはずで、それは「死を悲しむ心」という理由なき存続願望の存在が証明しています。

また私たちが地球に優しくしようと頑張っているのに、地球（宇宙）は残酷で、何度も大量絶滅を繰り返します。

そこで生命体はそれに対抗すべく、極めて多くの種類に分化し、いかなる地球からの攻撃に対しても、その中のどれかが、必ず生き残れるようにしています。

その点人類は分化していませんが、助かる人間とそうでない人間は、地位や経済力で既に分化されているのでしょうか。

このように生命がたくましく生きる中、宇宙のバイブルでは暗黒物質まで確認され始め、今なお続けられています。よってどのようなヒトでも勝手に神の名を用いて結論を出すことは、許されていません。

## 美とエコと倫理

その中で「ウザイ！」と言われながらもしつつこく問い続けたいこと。美とは？ それに関連

## イノベーションの源 美のエネルギー

そのとき私たちの姿は、どのように復活されているでしょうか。ところで話は前後しますが、私たちが未来に向けて形を変化させるとしたら、そのイノベーションの源は何でしょうか。

まず国家などによる強制的変化や宗教もしくは思想などによる変化は、結局のところ組織が絡み、長く続かないので、ダメでしょう。

つまり自主的に、あるいは知らないうちに自らを品種改良することになり、そこで役立つのは意外にも、「美」のエネルギーであろうと考えます。

このとりとめの美という概念は、生殖や娯楽をはじめとして、経済や政治でも、常にあるところで驚くべき機能を発揮しています。また歴史上あらゆる時代においても、その形を変えて、柔軟に、ヒトだけでなく様々な生物、

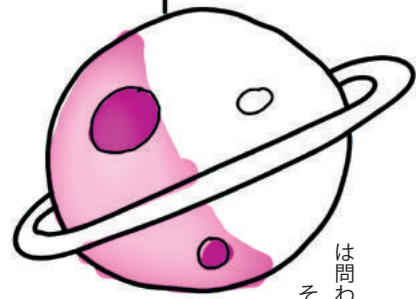
する予見として、生命体が小型化する可能性の中に、ペットの世界が挙げられます。

最初は手のひらサイズのイヌやネコから始まり、ウマやライオン、ゾウやキリンとエスカレーターし、とうとう禁断の人体実験が行われます。といっても品種改良ですから、意外と倫理観

## 美のアイデア







は問われないかもしれませんが、そのうちに、人体のサイズは個人の自由となつて、様々なサイズの人々が街を歩くわけですね。



## そして小型化へ 最小最善の教え

一般に、地球に最も負荷をかけているのは人類なので、Sサイズのヒトがエゴだということになり、アメリカにおけるかつての日本車のように、Lサイズのヒトが減ってしまうという展開もあります。

何しろ消費するエネルギー、水、食料すべてが大幅に減少しますから、相対的に豊かな暮らしができるのです。もちろん家畜などは今のままのサイズでよく、飼育は自動化されます。

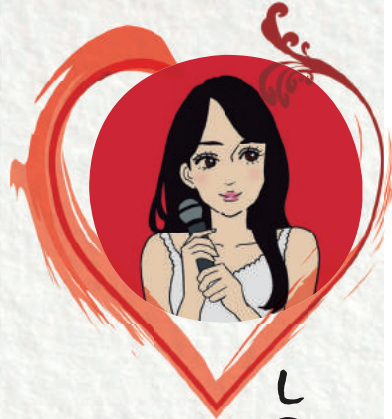
二分の一サイズの世界になると、面積は四倍、容積なら八倍に感じられ、狭い三畳間は二畳

の寝室へ、六畳間は、二四畳の広大なりビングになり、天井高は五メートル以上なので、メゾネットつまり内部を二階建てにできます。ただしLサイズのヒトを、Sサイズの家に招き入れることはできません。ガリバー旅行記やアリスは、こうした未来を描いたものでしょうか。人類の想像力には必ず訳があるといわれま

いずれにしても人類の小型化は、限りある地球の様々な限界点を、上方修正するに値する画期的な行為で、逆に現状のサイズに固執する理由がどこにあるのか、思い付きません。もちろん地球脱出とまで言わずとも、二分の一になっただけで、八分の一の酸素消費量は、惑星間移動に対し有効です。また倫理的観点から、人体を変化させることが問題ならば、ハツカネズミなどの実験動物の脳をヒト並に向上させ、未来を担ってもらおうという手もあります。



スタジオ アワーハウス <http://www.our-house.jp>



## ジャズ宵酔話① ブラックコーヒー

萩尾しの

「ブラックコーヒー」は1948年に作られたジャズの名曲だ。日本ではペギー・リーが歌ってヒットした。

ブルースにジャンル分けされるこの曲は、訳ありな異性を部屋で待ち続け、くすぶっていく姿を重めのリズムで表現している。男性目線の歌詞もあるが、圧倒的に女性が歌っているものが多い。待つ姿は女性の方が似合うからなのか。

待つ小道具として出てくるブラックコーヒー。そして煙草。お酒は出てこない。この女性はお酒が飲めないのか、あえて飲まないのか。上手くいかないうちに飲むお酒はろくな結果を生まない。だから私も悩みや落ち込みを解消する手段としては絶対にお酒に手を出さない。皆さんはどうであろうか。

待っている時間はとても長い。永遠に朝が来ないのではないかという時間の流れ方なのでは。他方、待たせている方は、時間の流れ方が違う

だろう。時間とは平等に流れているものではない気がする。

そんな重く流れる時間と空気とそして感情とを、ブルースが良く表現している。

さて、ここでリズムについて考えてみたい。音楽の定義は難しいが、よく三要素はメロディとリズムとハーモニーといわれる。このリズムが私たちの気持ちをどう変化させるのか。楽しくなったり、悲しくなったり、癒やされたり。テンポも重要だ。

ブルースで使われるシャッフル(二音目よりも二音目を短く演奏)のリズムは、けだるさや重さやもの悲しさと呼び起こす。正にこの「ブラックコーヒー」に打って付けだ。

では、同じ曲でもリズムやテンポを変えたとどうだろうか。同じ歌詞、メロディでも伝わる感情は変わるのだろうか。

リズムを変えて演奏することはよくあるが、曲を貶めているとして嫌がる方もいる。それは

**Shino's Box**

萩尾しの ジャズボーカリスト、ジャズ・スタンダードも邦楽(ポップス)もアレンジに趣向を凝らしたミュージック・アンソロジーCD: *Shino's Box* 発売中。八木美恵子 (pf, key), 萩尾広太 (g), 村谷ゆうすけ (b), 宇山満隆 (dr)。

多分伝わるものが変わるからだろう。以前出演していたお店で *Shino's* という曲をボサノバのリズムで歌ったとき、お店の方にものすごく叱られたことがある。通常スウィングで演奏される曲をボサノバでやる意味が分からない! とのお叱りだった。

そんな経験のある私がお届けするのは、ファンク・リズムの「ブラックコーヒー」。このアルバム *Shino's Box* の8曲目がそれだ。ファンク・リズムに乗ると、重さ悲しさ切なさはいったいどうなってしまうのか。実際の演奏で是非確かめてほしい。アマゾンでも発売中なので、感想など頂けるとうれしい。



# わたしはあの日、

市村みさ希

わたしはあの日、  
青空に向けて一匹の子羊を放ちました

わたしはあの日、  
放たれた子羊がかつて駆けていた麦畑に立ち  
地平線に向けて歩き出しました

わたしはあの日、  
地平線を跨いで地に降り立った  
虹の根源を探しはじめました

わたしはあの日、  
辿り着いた虹の地点が  
暗闇に飲まれていくさまを見届けました

わたしはあの日、  
暗闇に映されたオリオン座の点と点を結び  
愛という無機質な幽霊に触れました

わたしはあの日、  
争いに疲れ肉体の安息を選びました

わたしはあの日、  
肉体の安息を選び  
膨大な歴史を魂に宿らせました

わたしはあの日、  
膨大な歴史の足跡を廻り  
地を這い進むことにしました

わたしはあの日、  
振り返った地に残された  
不自然な足跡を確認し  
不在を誓いました

わたしはあの日、  
かぶかぶと笑う不在者の声が心地よく  
還ることを祈りました

わたしはあの日、  
円環の祈りを紡ぎ  
その輪の影を失いました

わたしはあの日、  
失った影を引き連れて  
人工物の間を彷徨いました

わたしはあの日、  
幽霊のように漂い続ける風と対話をし  
わたしは一体誰なのかと問答をしました

わたしはあの日、  
ぼやけていく問答が蘇る街を見下ろし  
曖昧な孤独に取り憑かれました

わたしはあの日、  
己は無力であるがまま  
息を潜めて孤独な犠牲者を  
傍観しておりました

わたしはあの日、  
潔白と称した無知を学ばされ  
正しい誤解を身に付けました

わたしはあの日、  
身に付けた誤解を解くべく  
凡ゆる表情の輪郭を嗅ぎ追いました

わたしはあの日、  
彷徨い続ける空虚の祭囃子に  
憂えておりました

わたしはあの日、  
彷徨い憂う視線の先で  
青い硝子を見つけました

わたしはあの日、  
手にした青い硝子から  
一艘の小舟を作りました

わたしはあの日、  
小舟の先頭に立ち  
お月さまに向かって漕ぎ進めました

わたしはあの日、  
くたびれた肌着で仕立てた白旗を  
お月さまに掲げました

わたしはあの日、  
掲げた白旗を再びやさしく身に纏い  
共に眠りにつきました

わたしはあの日、  
あざやかな眠りの中で  
かつて放った子羊を見つけました

わたしはあの日、  
凡ゆる表情の輪郭と対面した代償に  
人間に追われました

わたしはあの日、  
人間が生み出す病によって  
有限の枠組みを観察しました

わたしはあの日、  
有限の枠組みの中で人生を数え始めました

わたしはあの日、  
数え始めた人生において  
千の忠を見出し光を灯しました

わたしはあの日、  
灯した光に普遍的な安寧を願いました

わたしはあの日、  
安寧と安樂を求め神と争いました

わたしはあの日、  
かつて放った子羊と共に  
月夜の海を漂いました

わたしはあの日、  
わたしはあの日、  
わたしはあの日、

わたしはあの日、  
かつて駆け抜けた麦畑に  
かつてくぐり抜けた虹の根源に  
不在者の声と

歴史の残像を背負い  
わたしはその日、  
子羊を連れて  
地平線に向けて  
手放した無に向けて  
再び歩き出しました



## 市村みさ希

演劇企画ニガヨ  
モギ主宰、企画、  
脚本執筆、演出、  
広告デザインを  
担当。

ニガヨモギの花  
言葉である「不在」をテーマに、  
詩的で独創的な世界観、絵画的構  
図を意識した幻想的な空間作りを  
目指した創作活動を行う。近年は  
映像制作にも携わる。  
「わたしはあの日、」YouTubeにて  
映像版無料公開中。

# 鳥の幼鳥期と私の幼少期比べてみたら



世界遺産  
ガラパゴス

ガラパゴス諸島には多くのマングローブ林がある。海辺はもちろんのこと、島のメインストリート脇にも見られる街路樹のような存在だ。そしてそこには多くの鳥の姿が見られる。この島で生活していると、それぞれの鳥にテリトリーがあることに自然と気づき、「このマングローブのこの位置にいるということ、いつものあの個体だな」となんとなく個体まで識別できるようになった。中でも私が印象に残ったのが、シラガゴイというサギの一種だ。

初めて遭遇したときは眠そうにしていたわけだ。しかし、夜行性だからといって日中ひたすらずっと眠っているわけではない。マングローブのお気に入りのポジションで休息している時間もある。波打ち際で小魚を狙っていたり、日光浴や羽繕いをしていたりもする。



幼鳥観察が面白い  
群れずに単独で生きるシラガゴイだが、巣立つてから成鳥になるまでの幼鳥期は兄弟で行動を共にする姿がよく見られる。  
私がよく観察していた二羽の兄弟は、空になった巣の残るマングローブの周辺を主な行動範囲にしていた。時々その巣の隣に二羽で並んでいる様子を見かけたので、おそらくこの巣で生まれ育ったのだろう。巣立ち後も慣れ親しんだ実家近くで過ごす様子が親近感を覚える。  
ある日の午後、兄弟が下を見ながらゆっくりと一歩一歩足を進めていたので、餌を探しているのかと思いきや、やれ木の皮だ石ころだとか何かとくちばしで拾い上げてはお互いに「見て見て」と言うかのように報告し合っていた。見ていて思わず笑みがこぼれた。私自身も幼少期に似たようなことをやっていたからだ。それから子ども頃の自分と彼らを心の中で比較するようになった。共通点を見つけることが面白くなったのである。

また別の日、この兄弟はこちらに向けて羽を広げていた。私に向けているのかと勘違いしそうになったが、彼らが羽を広げている先は太陽つまり日光浴である。私がそれまで見てきた野

白昼のマングローブ林で眠そうにしている鳥  
元々ガラパゴスバットフィッシュに会いたいという理由だけでガラパゴス諸島を目指した私は、ガラパゴスの他の生き物に関する知識はそれほど豊かではなかった。初めての渡航時、昼間に島を散歩しながらふと近くのマングローブ林に目を向けた際、たまたまそこで背中を丸めて半目でたたずんでいたこの鳥に思わず「……誰？」と呟いてしまった。当時の私の予備知識の範囲内にこの鳥はいなかったのである。しかし初対面ながら、こちらが近づいてもノーリアクションでただただ眠そうにしているのが何だか面白くて写真を撮った。そしてその晩図鑑で調べてやっとこの鳥の名を知り、以来、意識的にシラガゴイを探して観察するようになった。シラガゴイは体長約六センチとカラスよりやや大きいサイズの夜行性の鳥である。どうり

まさかの謝罪ポーズだった。体勢自体はほとんど変えずに、過度にお辞儀するかのように体を前方に傾けることで太陽に自分の背面を晒したのである。この発想はなかった。私が幼少期の頃ならどうしただろう？ と考えたが、そもそも日光浴という習慣がなかったことを思い出した。残念だ。

## シラガゴイと自分の決定的な違い

数日後、いつもいる場所に彼らの姿がなかった。お出かけ中かと諦めて帰ろうとすると、バサバサと一羽だけ飛んできた。するとすぐ近くにある空いた巣、つまり彼の実家に歩いて入っていたのだ。普段ここで寝る様子はほとんどなかったが、たまには懐かしいベッドで休みたくなったのかもしれない。彼は巣の真ん中で立ち止まり、そのまま腰を据えるかと思うと突然巣の中をくちばしでつつき始めた。「何をする、

実家の床に穴を開けるつもりか」とこちらが慌てる、ひょいと綿ぼこりをくわえながら顔を上げ、巣の外へホイと捨てた。そして再び巣の中をつつき、ゴミらしきものをくわえては捨てるをくり返した。掃除が終わると、今度は巣を構成する枝を整え始めた。出っ張り過ぎた枝は中へ差し込み、枝が多い部分から一本をくわえて抜き出し、反対側の足りない部分に差し込んだ。枝が足りないとなると巣を出て近くの枝を拝借して戻ってきた。

この行動は何なのか。通常、巣を構成したり



鳥の日光浴スタイルは腹這いに寝転んでまっすぐ羽を伸ばし広げるといふものが主流だったが、彼らは太陽に向かって直立して三角形に羽を広げる珍しいスタイル(幼鳥・成長間わず他のシラガゴイたちも同様だったのでこの鳥の定番スタイルらしい)。

数分間このポーズで静止していたが、温まったのか体勢を変えようと動き始めた。表側が完了したなら、次は裏側である。きつとこのポーズのままくるりと後ろを向いて背中を太陽に向けるのだらうと思っただけで、次の瞬間に私の予想は裏切られた。

## ◎バットフィッシュ・アキコ

ガラパゴスバットフィッシュ愛好家、NPO法人日本ガラパゴスの会スタッフ。チャールズ・ダーウィン研究所のボランティア・スタツールとして、一年半ガラパゴス諸島とエクアドル本土に居住した経験を持つ。日本人でおそらく最も多くのガラパゴスバットフィッシュを観察してきた者として、講演や寄稿、現地スペシャルリストとしてガラパゴス諸島の同行等を行っている。



美は輝きだ

# ——センセイと音楽——

ムネーモシユネーの会・みむらりえ

# PAUCIRITY VDO SPI ENDOOR

今回で一つの終わりを迎える、と聞いている。一つの終わりということは、次の始まりが前提されているということなのであろうが、コロナ禍の中、一寸先は闇なので、先のことはわからない。

「今道センセイと音楽」というテーマで書くように言われたという私の記憶も正しいのかどうかかわからない。何を書いたらいいのかもわからない。わからないことばかりだけれど、まあ、いつか。

センセイの書物の中に『音楽のカロノロジー』という書物がある。これについてはどこかで触れてみたい気もするので、ここでは書名だけを紹介するだけにしておこう。

はシヨパンの音楽が一番好きなんです」と告白されたことがあった。そのとき、シヨパンが好きだとして「女の子みたい」ということになるのだろうか、という疑問が浮かんだが、言わずに吞み込んだ。

センセイは少年の頃にチェロを習っていた、

センセイは音楽が好きだった。けれど、一般的な音楽愛好家とはちよつと違ったような気がする。名盤と呼ばれるようなレコードやCDが所狭しと棚を占拠する……ということはない。

音楽を聴きながらくつろぐという姿も見なかった。

野球や相撲のテレビ中継を見ながら仕事をすることはあったけれど、音楽を聴きながら仕事をするということもなかった。

でも、センセイは音楽が好きだった。

晩年、チケットを購入して演奏会に足を運んだ、ということはなかったけれど、若い頃はどうかだったのだろうか。外国に居て、シエ

という話を聞いたことがある。チェロが空襲で焼けて以来、チェロを弾くことをやめた、というのは私の好意的な想像である。

ピアノは弾けたようだが、好きなシヨパンを弾いたという話は聞いたことがない。それでも、センセイは音楽が好きだった、というのは本当だ。

センセイと音楽……おそらく、センセイにとって音楽は享受するというよりも、創造する対象だったに違いない。文芸と同じである。たとえば、センセイは誰かが作った詩を読むことも好きで、その証拠に『詩と展覧』という詩の評論集を出版した。

だが、他人の詩を読むこと以上に、自ら詩を創り出すことが好きだった。和歌も詠んだし、小説も書いた。

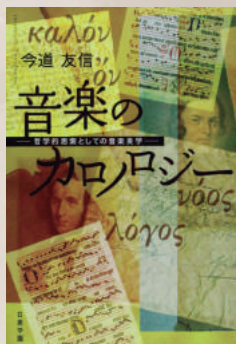
センセイにとって文芸は、享受するものでもある以上に、創造するものであった。

音楽も同じだ。誰かが創った音楽を聴くこと以上に、自ら音楽を創り出すこと、作曲することが好きだったのだと思う。

私のこの考えはそれほど外的外でないことは、センセイ自作自演のピアノ曲の音源が残っていることや、自作の歌曲が楽譜集になっていることが証明してくれるだろう。



『今道友信ピアノ小品集』のCD版。作曲、演奏ともに今道友信による。カセット・テープ版もあった。書籍で言えば、私家版に当たる作品集である。落語の自作自演(音声のみ)も残されている。



『音楽のカロロジー——哲学的思索としての音楽美学』四六版・368頁・上製。日美学園／ピナケス出版、2013年。

センセイの歌曲に『カンガルーの子守歌』というのがある。

これについては、紙面の都合で省略するが、この曲は、交響曲に発展させる構想があったらしい。

やはりセンセイは音楽が好きだったのだ。

♪

作曲家のヤニス・クセナキス(だったと思う)がと友達だったとも聞いた。  
原千恵子という伝説的ピアニストの評伝書の中に、センセイの名前が登場していたが、そのピアニストとどういう関係にあったのか、聞いたけれど忘れてしまった。  
それはともかく、確かにセンセイは音楽が好きだった。

「女の子みたいで恥ずかしいのだけれど、僕



# 新・世界の名著①

社会派文化人やインフルエンサーのように、  
チラ見程度の印象と自己都合で、ほめ称えるの  
も古典に失礼な気がする。しかし、確かにそれ  
らしく称えておけば、反論されることも少ない。  
一方で、時折、自分がまるで大詩人、大哲学  
者の身内（舎弟）や分身であるかのように舞い  
上がって、斜め上から熱く語る輩もいる（症状  
が進めば霊言か）。

ありがちのザツクリなハツタリ概要で分かっ  
た気分になるのでもなく、はたまた、あたかも  
哲学談義に興じる大学生のような、分る分か  
らないなどという、低い次元に距離を置き、実  
際に名著のインパクトある一節を体感してみよ  
うというのが本シリーズ・コラム趣旨である。

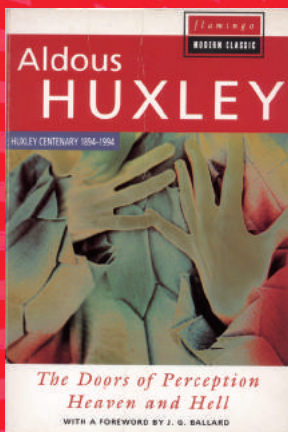
## ● オルダス・ハクスリー『知覚の扉』

さて、コミュニケーション能力が問われて久  
しい今日の頃、皆様いかがお過ごしでしょう  
か？ メスカリン（幻覚剤）体験手記というウ  
リ文句（？）がクロース・アップされがちなエ  
ッセイですが、テーマ、素材は何であれ、切れ  
味鋭いホンモノが筆を執れば、ありきたりな良  
識を突き破る爽快にして卓越した見識が光を放

ちます。

本質的な次元では、そもそもコミュニケーシ  
ョンなど成り立つはずがない！ せいぜい間接  
的なものでしかない、というのが本名著の一節  
にある主張。今風に俗っぽく言えば、未だに、  
英会話さえできれば、異文化間で国際的コミュニ  
ケーションが成立すると勘違いしている明る  
くアクティブな啓発系諸氏の熱く残念な言動は  
論外としても、日常生活やビジネスや国際交流、  
文化交流、意味不明なIT関連などといった意識  
高い系、上級市民が好むサロン風コミュニケーション、  
○クラブばかり、しよせん中途半端  
な幻想、思い込みでしか……ない。

このような論拠には、相当に根源的かつ、近  
現代的な認識論も潜んでいそうですが、本エッ  
セイは、直感的で、そういった類のものではあ  
りません。なるほど、言った／言わないで揉め  
るオワコン世間を見るに、むべなるかなも理  
では、名著の一節をお楽しみください。



## ! E. Note

具体的に作業プロセスを示さず、知らず、雑把に都合よく単純化し、抽象化を極め心地よく響く方  
法論や考え方をあたかも自分の歴史的考案、絶対的真理のように強い口調でそう快に言い切ってし  
まうインフルエンサーたちであるが、情弱や底辺の素人筋からの支持は絶大でも、現実的な研究や  
創作には、全くと言ってよいほど役立たない（情弱は情弱のまま、そう訴えれば、まだ信心が足  
りぬ、とまるでカルトと同じ信者商法）。理由は明白で、割り切れない例外的グレー・ゾーンが無  
限に混在するからだ。いや、ビジネスにおいてもかなり怪しいもので、AI だのロボットだのがヒト  
に取って代わると（今後始まる大変革であるかのように）叫んでる彼らも、ほとんど AI が何かも知ら  
なければ、ロボットの運用管理もやったことのない外野郎の空想家だ。狭い世界での偶発的成功体  
験が彼らの偽全能の源であろう。実際には、大工の棟梁のように、現場のどこかで急に欠員が出た  
とき、即座にその穴を埋める能力・技術・判断力がピンチを救う。実践できてこそ美しい。世の中  
を動かし導く志高き胡散臭いリーダーたちは、いざというとき、たいていはあたふたし、見事に他  
人を装う振りする真似を演じる。優柔不断にして、決断することはない。失敗の原因は当然自分以  
外のどこかにもっともらしく巧みに見いだされる。一方、うまくいっている偶然を自らの少しばかり  
優れた能力の賜物と、悦に入ってはまじめにそう信じ込む。このあたり 2500 年ほど前にトゥキュ  
ディデスがペリクレスに語らせたとおりだ。ということで、やっと古典に行き着いた。古典に学べ  
と謳われ続けど、未だそして今後もあまり変わらぬ世を前提に、本号より新・世界の名著と題して  
モダンな古典的作品を紹介させていただこうと思う。ありふれた正論でもなく、常識的でもない鋭  
い卓見を実際に体感していただくために、一節集中で楽しもうという趣旨である。きつといつかど  
こかで心の役に立つ。翻訳は信用できないものも多いので、なるべく原文も紹介したい。（編集隊長・濱）

We live together, we act on, and react to, one another;  
but always and in all circumstances we are by ourselves.  
The martyrs go hand in hand into the arena ; they  
are crucified alone. Embraced, the lovers desperately  
try to fuse their insulated ecstasies into a single self-  
transcendence ; in vain. By its very nature every embodied  
spirit is doomed to suffer and enjoy in solitude. Sensations,  
feelings, insights, fancies – all these are private and, except  
through symbols and at second hand, incommunicable.  
We can pool information about experiences, but never  
the experiences themselves. From family to nation, every  
human group is a society of island universes.

Most island universes are sufficiently like one another  
to permit of inferential understanding or even of mutual  
empathy or ‘feeling into.’ Thus, remembering our own  
bereavements and humiliations, we can condole with  
others in analogous circumstances, can put ourselves  
(always, of course, in a slightly Pickwickian sense) in  
their places. But in certain cases communication between  
universes is incomplete or even non-existent. The mind is  
its own place, and the places inhabited by the insane and  
the exceptionally gifted are so different from the places  
where ordinary men and women live, that there is little  
or no common ground of memory to serve as a basis for  
understanding or fellow feeling. Words are uttered, but fail  
to enlighten. The things and events to which the symbols  
refer belong to mutually exclusive realms of experience.

Aldous Huxley : *The Doors of Perception*

我々は共に生き、互いに作用し合い、そして反応し合う。  
しかし、いつの場合も、孤独である。殉教者らは手を取り  
合って闘技場へ赴く。だが彼らはただ独りで十字架に掛か  
る。抱き合い、激しく死にそうなほどに、恋人たちは自らの  
孤立した悦びの絶頂を唯一の自己超越へ溶かし込もうと  
試みる。しかし、無益だ。自らの本性自体によって、各々  
具現化された精神には、孤独の中で苦しみそして楽しむこ  
とが宿命である。感覚、感情、見識、幻想、これらすべて  
は個人的で、象徴を介してそして間接的でなければ、伝達  
できない。我々は経験に関する情報を蓄えうるが、しかし  
決して経験そのものを蓄えることはできない。家族から国  
家まで、人間の集団は各々が島宇宙という共同体である。

類推による理解あるいは互いに共感や感情移入さえ許さ  
れるほど、ほとんどの島宇宙は互いに十分似通っている。  
したがって、自分自身に関する死別や屈辱を思い起こせば、  
我々は似たような境遇に置かれた他人に哀悼の意を表すこ  
とができるし、すなわち、自分自身を彼らの立場に置くこ  
とができる（もちろん、いつも僅かばかりはピクウィック  
的な意味においてだが）。しかし場合によっては宇宙間  
での伝達は不完全いや存在すらしない。心とはそれ自体の  
場所である。それゆえ正気でない者や特異な才人が住む場  
所は凡庸な男女が生きている場所とはあまりにも異なっ  
ているので、理解や同胞感情のための基礎として働く記憶と  
いう共通基盤などほとんど、あるいは全く存在しない。言  
葉は発せられている、しかし言葉は知らせることができな  
い。象徴が指し示す物事は、経験という相互に排他的な領  
域に属している。

オルダス・ハクスリー『知覚の扉』

■ フィロカルチャー 第6号(2021年夏) ■ 制作協力 大異山高德院清浄泉寺 ■ 編集隊長 濱賢(hamacken)  
■ 発行所 哲学文化塾(今道友信記念文庫) ■ 日美学園日本美容専門学校 ■ e-mail : info@philoculture.jp  
■ 企画編集 ビナケス出版有限公司 ■ ムネーモシュネーの会 ■ url : http://philoculture.jp/



「フィロカルチャー」は2021年12月発行予定です



# ホメロス『イリアス』への招待

川島重成・古澤ゆう子・小林薫 編

ピナケス出版

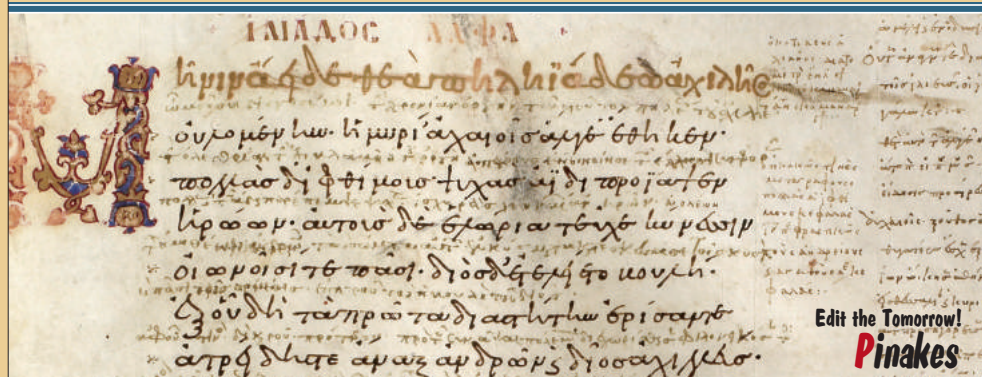


ヨーロッパ文化の源泉、最古の「文学」作品にして最大の金字塔である叙事詩『イリアス』は、古代・中世はもちろん、はるか2700年の時を隔て、今日もなお、様々な文化活動へ影響を与え続けている。

本書は、わが国では類を見ないスケールでギリシア精神のアルケーといえる『イリアス』の尽きぬ魅力を多様な視点から浮き彫りにする。専門家、研究者のみならず、ギリシア文化に寄せる一般読者の深い知的関心にも、十分に応えるものである。

ホメロス『イリアス』への招待 2019年発行  
四六判・上製・592頁 定価：本体4,800円+税  
ISBN978-4-903505-18-3 C1098

執筆者：川島重成 / 古澤ゆう子 / 小林薫 / 安村典子 / 佐野好則 / 古澤香乃 /  
山形直子 / 浜本裕美 / 河島思朗 / 石川榮治 / 池田黎太郎 / 平田松吾 /  
水島陽子 / 荒井直



Edit the Tomorrow!  
**Pinakes**